

多津美の「た」のつぶやき



平素より、多津美中学校区青少年を育てる会をはじめとし、様々な形で地域の方々にはご助力いただき感謝いたしております。

昨年末に、ノートルダム清心女子大学理事長の渡辺和子さんが亡くなりました。秋の高校説明会でお元気なお姿を拝見したばかりでしたので、この度の訃報に、驚くと同時に大変残念な気持ちでいっぱいになりました。

改めて、著書を紐解くと心が塞ぐ時や生き方に迷う時、力を与えてくれます。その多くの著書の中の『「ひと」として大切なこと』の中に「・・・自分の中に二人の自分がいて、こうしたほうがいい自分と、でも、こんなこと面倒くさいわという自分と。したらいけないという自分と、かまわない、やっつけようという自分と、二人の自分が葛藤することが私にはよくございます。…【略】…自分がしたいことでもしないですませられる人間、または、自分がしたくないことでもしようと自分に言い聞かせてする人間というのが、自主性—自分が自分の主人であるという強さを持った人間と言えるのです。・・・」とありました。確かに、年はいくつになっても常に二人の自分がせめぎ合っていますね。渡辺さんは、「礼儀が、人間性の一つの表れとして大事だと思われるのは、礼儀というものは、自分を抑えなければできないことが多いからです。面倒くさいなと思っても立つこと。面倒だなと思ってもポケットから手を出すこと。面倒だなと思いつつも挨拶をすること。そういう自分との闘いが、礼儀ということの中に取り込まれて日常的にございます。・・・」こうした自分との戦いが積み重なって、その人の「人格」というものが作られていくことを私たちは知っていなくてははいけませんね。

日々、中学生と向き合っていますが、自主性を育てるとか、自分から行動できる力を育てるとかよく目標に掲げますが、実現するのは簡単なことではありません。が、まず我々大人が「自分がしたいことでもしないですませられる人間、または、自分がしたくないことでもしようと自分に言い聞かせてする人間」になろうとすることが大切かと思えます。2年生の立志式を前に伝えたいことを書き連ねてみました。

毎日起きる出来事に真剣に立ち向かい、自分の中の $\textcircled{た}$ からものを磨き、毎日出会う人々と $\textcircled{つ}$ ながり、

今を強く正しく生きることが $\textcircled{み}$ らいへとつながると信じて。

人間至る処青山あり

置かれた場所で咲きなさい

